

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2021
Jtitle	日本語と日本語教育 No.49 (2021. 3) ,p.170- 170
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0170">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20210300-0170</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

2020年はコロナ・パンデミックの年として後世に記憶される一年となりました。私たちの日常生活がいとも簡単に奪われることは、2011年3月の東日本大震災、それに続く福島第一原子力発電所の事故で経験したはずですが、それから十年も経たないうちに今度はパンデミックです。私たちは「災害の時代」に生きていることをもっと強く意識すべきなのかもしれません。学生と直接会えない日がこれほど長く続くとは思ってもみませんでした。コロナ禍は一年を経ても今だ出口が見えない状態です。

この一年で本センターの日常も大きく変わりました。本塾では、昨年4月には春学期の授業の全面オンライン化が決まり、新学期までの一か月間は若手教員が中心となってオンライン授業の準備を進めてくれました。本センターでは授業運営に関して、約50名の非常勤講師の方々にご協力いただいておりますが、若手専任教員が率先して、WebexやBoxの使用に関する資料を作成して配布、オンラインでのWebex講習会を実施するなどして、初めてのオンライン授業のために専任も非常勤も一丸となって、授業準備を進めることができました。これも、普段から多くの科目でチームティーチングを通じて教員間のコミュニケーションが円滑に行われてきた証左だと思っています。

春学期は一カ月遅れで5月初めからスタートしました。最初は初めてのオンライン授業で混乱もありましたが、学生も先生も徐々に慣れ、春学期が終了するころにはオンライン授業とは何か、ということがだいぶわかってきたように思います。今後は、この「新しい授業様式」の長所に注目し、ポストコロナ時代の日本語教育をどうするのか、ということをごべて考えていきたいと思っています。

本号には論文1編、研究ノート1編、調査報告2編、授業報告2編のほか、本塾大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野修士の博士論文要旨1編が掲載されています。授業報告2編は、初めてのオンライン授業に関する報告です。教員間でオンライン授業に対する問題意識が共有されることを期待します。

M.M